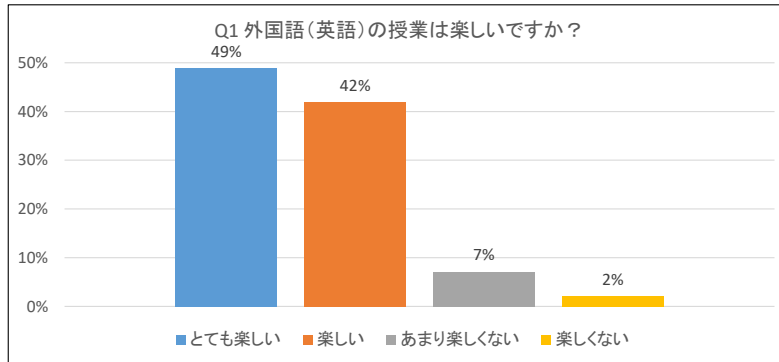


令和6年度外国語(英語)の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察(宇城市)

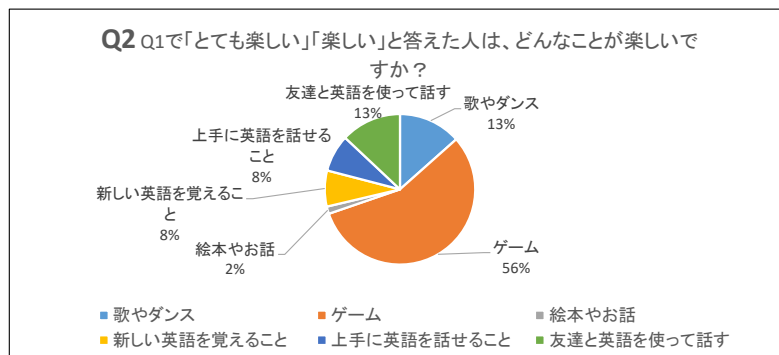


【Q1について】

全体的に見ると、「とても楽しい」「楽しい」の割合が9割を超えていて、特に「とても楽しい」と答えた児童が昨年度より増えている。

学年ごとに見ると、低学年では95%以上、中学年では90%、高学年でも80%以上の児童が楽しいと答えている。英語の学習に対して児童が意欲的に取り組む姿勢を大切にしながら、今後も継続して楽しく学べるような授業を進めていくようにする。

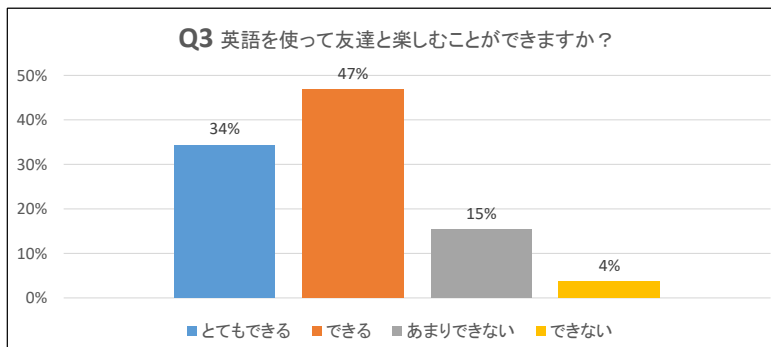
反面、「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答した児童も、数としては少ないがすべての学年で一定数いることから、個々の実態に応じた指導方法の工夫改善を図っていく必要がある。



【Q2について】

全体的な傾向としては昨年度と同じで、「ゲーム」「歌やダンス」が楽しいと答えている児童が多い。学年ごとに見てみると、低学年では「ゲーム」が圧倒的に多いが、高学年になると、「友達と英語を使って話す」「上手に英語を話せる」の割合が高くなっている。特に、「上手に英語を話せる」ことについては、昨年度より増加している。このことから、学年が上がるにつれて自分が学んだことを実際に使ってみることで、より英語に対する興味・関心が高まっていくと考えられる。

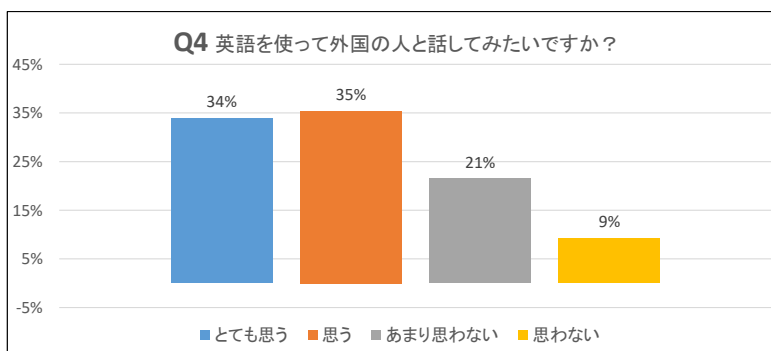
今後も、学年の発達段階に応じた学習活動を工夫していくことが大切である。



【Q3について】

「とてもできる」「できる」の割合が81%で、一昨年度や昨年度と比較して増加傾向にある。実際に英語の授業を参観してみると、児童同士が生き生きとコミュニケーションを取り合っている様子が窺える。授業で学んだことを生かして、積極的に英語に慣れ親しもうとする児童が増えている。授業において、指導者が基礎的・基本的な表現を繰り返し練習し定着を図ることで、児童が自信をもってコミュニケーションを図ることができるようになってきている。

一方、「あまりできない」「できない」と答えた児童については、昨年度より減少しているものの、苦手意識をもつ児童も2割近くいることから、個への配慮をしながら取り組む必要がある。



【Q4について】

「とても思う」「思う」が69%で、昨年度より若干増加している。授業で学んだことを実際に活用してみたいと考えている児童が、全体の7割ぐらいいることが分かる。反面、話してみたいと思わない児童も3割程度いて、中学年から高学年になるにつれて増えてきている。

以上のようなことから、ALTの先生と積極的に交流する機会を増やしたり、ICTを活用して他国の同世代の児童と交流する学習を設定したりすることにより、英語を話すことに対する抵抗感を軽減する工夫をしていくようにする。また、自信をもって話したり交流したりすることができるように、学習内容の定着を図ることが大切である。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】

「担任等とALTの先生とのコミュニケーション活動を積極的に取り入れてあり、早い段階から英語に慣れ親しむことができて有意義である」というような意見が多く見られた。また、「自分の考えを積極的に表現できるようになってほしい」という声もあった。英語の授業に対する保護者や学校関係者の関心は高く、授業参観等を望む声も聞かれる。

今後も、教材研究を深めるとともにコミュニケーション活動の工夫を図り、児童の興味・関心を高めながら、中学校の学習につないでいくことが大切である。

【考察・今後の展望等】

全体的に、どの項目においても昨年度より「とても楽しい」「とてもできる」等の割合が増加している。このことから、指導者とALTの先生との協力的な指導や、意欲を高める指導方法の工夫改善により、取組の成果が表れていると考える。

ただ、特例校として取り組んでいる1・2年の英語活動については教材・教具等が十分ではないことから、新教材の導入を検討している。そのための準備や周知を図りながら、今後も宇城市としての独自の取組を推進していくようにする。